

「環境ボランティア養成研修 in 英彦山Ⅲ」 HP 原稿

- 主催事業名
平成29年度主催事業「環境ボランティア養成研修 in 英彦山Ⅲ」
- 事業目的
自然豊かな英彦山を舞台に、講話や実習等を通して、森林環境や河川環境に関する理解を深めるとともに、環境保全を主体的に行うことができる環境ボランティアの養成を図る。
- 期日
平成29年9月23日（土）～24日（日）
- 参加者
32名（高校生3名、教員1名、一般4名、ボランティア団体24名）
- プログラム
9月23日（土）

時間	内容及び活動場所
13:00～13:10	開講式（第1研修室）
13:20～13:50	実践発表「環境ボランティア団体による取組」（第1研修室）
15:00～16:00	活動「英彦山の希少植物観察」（英彦山青年の家敷地内の杉林）
16:00～17:00	活動「森林散策・森林整備」（ススキヶ原上部）
19:00～21:00	意見交流「環境ボランティアとして実践したいこと」（第1研修室）

9月24日（日）

時間	内容及び活動場所
10:00～12:00	活動「生きものにぎわいの森づくり①」（英彦山青年の家周辺）
	主な内容「自然観察会」「森林生きもの調査①」
12:00～13:00	昼食（ススキヶ原周辺）
13:00～14:00	活動「生きものにぎわいの森づくり②」（ススキヶ原）
	主な内容「森林生きもの調査②」「ネイチャークラフト」
15:00～15:20	閉講式（第1研修室）

- 活動の実際
実践発表【環境ボランティア団体による取組】
参加者に環境保全活動への意欲・関心を高めてもらうために、「筑豊の自然を楽しむ会」代表の岸本博和先生に森林環境の保全活動を行っている団体の取組について実践発表をしていただきました。実践発表では「筑豊の自然を楽しむ会」が、自然好きな子どもや自然を大切に思う人を育むために、自然体験活動を推進していることを教えていただきました。そして、この活動では、親子を対象に遊びを中心とした催しをしたり、様々な世代の方が参加して『里山・湿地再生活動』等を

行ったりしている活動の様子を紹介していただきました。参加者は、実践発表を聞き、環境保全活動に参加しようとする意欲を高めるきっかけにすることができました。



里山の概要について話をする岸本先生



岸本先生の話に熱心に聞く参加者

参加者の感想

- ・森林伐採をしてはいけないと思っていたが、里山は人の手が加わることで、よりよい環境ができることを学んだ。
- ・面倒だからと言って森林を放置しておく、大変なことになることがわかった。

活動【英彦山の希少植物観察】

参加者に英彦山の希少植物や自然環境の現状について知っていただくために、青年の家の前にある杉林を散策しながら、『英彦山の希少植物観察』を行いました。観察の中では、参加者一人ひとりが気になる植物を見つけ、その見つけた植物について発表し合いました。その後、参加者は講師の岸本先生から発表に対してコメントをいただき、英彦山の植物について理解を深めました。また、オキナゴケやマツカゼソウ等はシカの好まない植物であるということや英彦山の植物は、シカの被害を受けていること等を学びました。



見つけた植物について話をしている参加者



参加者が見つけたものを発表し合う様子

参加者の感想

- ・植物の名前をたくさん知ることができた。
- ・シカから守れば、いろんな生物が生息することができるとわかった。

活動【森林散策・森林整備】

参加者に森林保全の実践的活動を体験していただくために、引き続き岸本先生のご指導の下、森林散策・森林整備を行いました。森林散策では、青年の家キャンプ場近くのススキヶ原付近を散策して、日光が入らない現状を確認しました。

その後、地面に落ちている木々や枯葉を集める『森林整備』を行いました。岸本先生からは、本来の森林の機能を取り戻すための森林整備の方法を教えてくださいました。



ススキヶ原付近を散策している様子



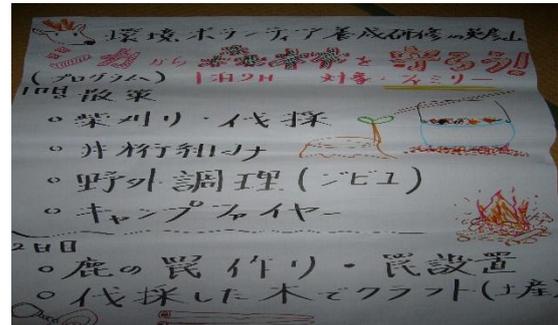
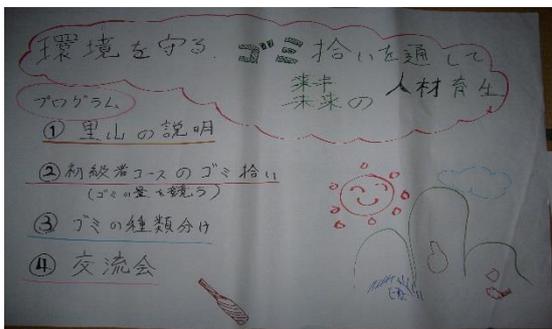
落ちた枯葉や地面に落ちている木々を集めている様子

参加者の感想

- ・森林整備をすることで、他の木々が生息できる環境が作れることがわかった。
- ・森や山を維持するためには、森林整備が必要なことがわかった。

意見交流会【環境ボランティアとして実践したいこと】

1日目の最後の活動として、「筑豊の自然を楽しむ会」の成本麻衣子先生にファシリテーターをしていただき意見交流会を行いました。意見交流会は、参加者がお互いにリラックスした雰囲気の中で意見を出し合うことができるように、ディベートに似た「ワールドカフェ」形式で行いました。ここでは、「環境ボランティア養成研修の事業プログラムを作ろう」というテーマを設定して、主催事業を立案する主催者の立場になって、グループでプログラムを立案しました。そこでは、「間伐した木を活用できないか」、「シカの食害から植物を守るための方法はないか」、「山の効果的な清掃方法は？」などの意見を出し合いながら、グループで話し合いました。この活動を通して、環境保全についての視野が広げながら、ボランティア活動に参加しようという気持ちを高め合いました。



参加者が立案した環境ボランティア養成研修の事業プログラム

参加者の感想

- ・グループ間で活発な話し合いができ、交流を深めることができた。
- ・グループ交流をしていて、今後の環境ボランティア活動への意識が高まった。

活動【生きものにぎわいの森づくり①・自然観察会】

2日目は、福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所が主催する「2017 生きものにぎわいの森づくり in 英彦山」との協同事業として活動しました。今回の活動は、シカの食害が動植物に及ぼす影響やシカの食害対策の実施により保全される生物多様性の価値などを学ぶものとなっています。

まず、参加者に英彦山の動植物の生態系について学んでいただくために、英彦山青年の家周辺で自然観察会を行いました。自然観察会では講師の福岡県保健環境研究所の須田隆一先生と石間妙子先生から生息する動植物について説明していただきました。参加者は、人工林と天然林に生息する動植物の種類や特徴などについて理解を深めました。



見つけた植物を確認しあう参加者



見つけた動植物の特徴を説明している石間先生

参加者の感想

- ・英彦山では、1ミリ以下の小さな昆虫が多くいて、網で捕まえることで普段見かけていないことを実感した。
- ・同じ種類の昆虫でも、特性が違うものがあることがわかった。

活動【生きものにぎわいの森づくり①・生きもの調査①】

シカの防護ネット内外で、シカの食害の影響をどれだけ受けているか比べるために、「生きもの調査」を行いました。この生きもの調査では、まずシカの防護ネット外の動植物の種類や植物の生育状況を調べました。虫の調査では、虫網を使って虫を捕獲し、植物の調査では、3～5種類程度の植物を採取しました。

調査の結果、シカの防護ネット外では、背丈の低い植物が多くあり、特にシカの好まないマツカゼソウ等が多く生育していることがわかりました。

活動【生きものにぎわいの森づくり②・生きもの調査②】

シカの防護ネット内外で、シカの食害の影響をどれだけ受けているか比べるために、引き続き「生きもの調査」を行いました。ここでは、シカの防護ネット内の動植物の種類や植物の生育状況を調べました。生き物調査①と同様に虫の調査では、虫網を使って虫を捕獲し、植物の調査では3～5種類程度の植物を採取しました。調査の結果、シカの防護ネット内では、シカの好む山椒等、多種多様な植物が生育しており、背丈の高い植物が多くあることがわかりました。

参加者は、シカの防護ネット内外の動植物の種類や植物の生育状況の違いに驚いていました。シカ防護ネットは、植物をシカの食害から守るために、一定の効果があることがわかりました。



シカ防護ネット外を調査している様子



シカ防護ネット内の様子

参加者の感想

- ・シカによる影響の違いにびっくりした。
- ・シダとマツカゼソウが多くあり、印象に残った。

活動【ネイチャークラフト】

生きもの調査の後、葉や枝など自然の中のものに親しみを持っていただくために、「ネイチャークラフト」を行いました。

「ネイチャークラフト」では、押し葉しおり作りをしました。参加者は、葉や枝などの材料を工夫して使い、様々なしおりを作りました。

参加者は、充実した活動ができ、自然の材料で作るものづくりの良さを感じている様子でした。



ネイチャークラフトに使った様々な葉などの材料



参加者が作った押し葉しおり

参加者の感想

- ・楽しく、自然のもので立派なしおりが作れて驚いた。
- ・しおりの作り方を覚えたので、身近なところで紹介したい。

○ 全体をとおして

「環境ボランティア養成研修 in 英彦山Ⅲ」は、森林保全の実践的活動を通して、環境保全活動について意欲・関心を高めることを目的としています。参加者からは、「私たちが自然環境保全のためにできることは何かあるのか、また事業に参加して、学んだことを他の人に伝えていきたい。」「森林整備体験を通して、森林整備の大切さがわかった。また他の環境ボランティアにも参加したい。」「シカの食害を受けない森にするには、どうすればいいのか、何かいい案はないか考えていきたい。」「一つの生き物の数が崩れると、自然のバランスをとっていくことが難しくなることが分かった。」という感想があり、今後環境ボランティアに主体的に参加しようとする意欲や森林保全に対する関心を高めることができました。

年間3回シリーズで行った本事業（第2回は九州北部豪雨の影響で中止）では、近年の森林環境問題の解決に向けて、環境保全を主体的に行うことができる環境ボランティアの養成を図るために、「間伐材を使ったものづくり体験」、「森林散策・森林整備」等の自然体験活動を行いながら環境について学んでいただきました。

本事業を通して、今後さらに多くの方に環境保全に関心を持ってもらうことで、進んで環境ボランティアに参加していただきたいと思っています。そのため多くの方に、自然の素晴らしさや自然の中で活動することの楽しさを伝えていくことが大切だと思っています。そして、環境保全について目を向けることができるように、英彦山を舞台にした実践的なプログラムを考えていきたいと考えています。